

27. 悪性腫瘍における CEA 値 (サンドウィッチ法) について

前川 全 木下 文雄

小笠原 幹

(都立大久保病院・放)

馬場 理一

(同・内)

西川 正夫

(同・外)

岡田 清

(同・産婦)

我々は今回ダイナボット社製 CEA キットを使用する機会を得たので、各種悪性腫瘍患者と非悪性腫瘍患者についてその CEA 値を測定、又悪性腫瘍患者の術前術後及び放射線治療前後の CEA 値経過、転移癌の CEA 値、死亡者の CEA 値経過、又肝疾患時の CEA 値も併せて測定し、CEA 値とその臨床的有用性を検討した。

対象：昭和 50 年 7 月より昭和 51 年 3 月の間に都立大久保病院に来院した悪性腫瘍患者 199 例(術後例 22 例を含む)、非悪性腫瘍患者 84 例の計 283 例である。

方法：測定方法はダイナボット社指定の one step sandwich 法によった。

成績：1) 非悪性腫瘍患者の CEA 値は肝疾患を除き殆ど正常域にあり、悪性腫瘍か非悪性腫瘍かの鑑別には CEA 値が高値を示した時は有用性があると考ええる。2) 悪性腫瘍患者の CEA 値は、127 例中 46 例 (36%) が正常域にあり、81 例(64%) が高値を示した。特に肺癌、腸管癌、膵癌、転移性肝癌が高率に高値を示した。即ち肺癌は 15 例中 2.5ng 以下の低値を示したものは僅か 2 例 (13%) で、その他の 13 例 (87%) が高値を示した。胃癌は 28 例中 9 例 (32%) が正常域にあったが、その他の 19 例 (68%) が高値を示した。大腸癌 1 例、直腸癌 8 例及び膵癌 4 例は全例高値を示した。転移性肝癌は 14 例中 1 例 (7%) を除き他の 13 例 (93%) が高値を示した。3) 転移癌の CEA 値は高率に高値を示した。4) 手術前後の CEA 値は、根

治手術を行った肺癌、胃癌の症例でかなり著明にその低下を見た。5) 放射線治療前後の CEA 値は、直腸癌再発の 1 例を除き、放射線治療効果を認めた症例でも治療前後に著変を見なかった。6) 死亡例の CEA 値は、一般にその漸増傾向を経過中に見る事が出来た。7) 肝疾患の CEA 値は、急性肝炎は正常域にあり、慢性肝炎特に肝硬変ではかなり高率に CEA 値上昇を見た。

28. Z-gel 法, One step sandwich 法による血中 CEA 値の比較検討

増岡 忠道 三本 重治

(日本鋼管病院)

RIA による血中 CEA 測定の両 kit の比較検討を行った。kit として要求される手技の簡便性、検出感度、精度は kit の開発時期に 2 年間の差があることから、One step Sandwich 法が良好であった。両 kit を使用して同一検体 34 例の測定値を検討したが、その回帰直線は $Y(\text{Onestepsndwich 法})=0.43x+0.71$ 、相関係数 0.87 が得られた。又、One step sandwich 法での測定値の高いものほど、Z-gel 法の 1/2、1/2 以下の値を示した。京浜地区の工場従業員のなかから Z-gel 法、One step sandwich 法で健康正常人の血中 CEA 値を測定した。その平均値は Z-gel 法では $2.83 \pm 1.51 \text{ ng/ml}$ (385 例)、One step sandwich 法 2.50 ± 1.39 (121 例) と Z-gel 法が高い値を示した。この違いは両法に用いられている抗血清の特異性の違いと考えられますが、CEA の化学分析が進むにつれ、解明される問題であろうと思われる。